

平成 26 年度最終報告書

平成 27 年 12 月 29 日

実施団体名: 特定非営利活動法人 Seed to Table ～ひと・しぜん・くらしつながる～

事業名: 環境に配慮した有機農業技術の応用とグループ活動による小規模農家の生計改善

事業対象地域: ベトナム社会主義共和国ベンチエ省ビンダイ郡およびパーチャー郡

実施期間: 平成 26 年 11 月 1 日～平成 27 年 11 月 1 日

1. 活動の目的

ベトナムはコメやコーヒーなどの農林水産物を生産・輸出している大農業国として知られているが、農家の暮らしが改善されているとは言えない。理由は、生産コストの上昇、気候変動の影響によるリスクの高まり、集約型農業によって大量に使用されている農薬などが原因の環境汚染、中間商人に農産物を安く買い取られていること等である。

今後、農家の大半を占める小規模経営農家の暮らしを改善していくためには、農薬等を使わず、地域の資源を活用した環境保全型農業の実践による自然資源や生態系の保全と生産コストの抑制、技術の改善と農産物の品質向上、そして、グループ設立による共同販売と外部との交渉・提携が必要とされている。

また、近年、ベトナムでは食の安全を脅かす事件が数多く発生しているが、情報の欠如によって、消費者は安全な食材を入手できずにいる。農家、消費者、流通業者、行政機関などが連携して情報を共有し、安全な農産物を生産・流通させる仕組みづくりが求められている。

こうした背景から、以下の 2 点を目的として活動を立案した。

1. 小規模経営農家が生産者グループを設立し、有機農法を実践しながら、共同で農産物の生産・品質管理に取り組み、現金収入を向上させる。
2. 消費者や流通業者などへ生産者グループの取り組みを紹介し、連携しながら、安全な食材を生産・流通させる仕組みを構築する。

2. 活動の内容と方法

【対象地域】

ベンチエ省ビンダイ郡およびパーチャー郡の 3 つの有機野菜生産者グループ

※当初の計画ではベンチエ省ビンダイ郡内の 3 グループと活動を実施する予定であったが、2 つのグループで村人が有機農業の実践を断念したため、1 グループでのみ活動を実施することとした。また、パーチャー郡より実践希望が出され、慎重に検討した結果、2 つのグループが新たに有機農業を実践することとなった。この点については 2015 年 6 月 4 日付の計画変更申請書にて報告させて頂き、ご了承頂いた。

【手法】

各地域で設立された有機野菜生産者グループと行政および農業専門機関の職員から成るインター・グループと共に「参加型保証制度 (Participatory Guarantee System、以下、PGS と略す) の構築・運営を行う。PGS はインター・グループによって運営される有機農産物の生産・品質管理・販売を行うシステムで、参加しているメンバーが相互チェックを行い、有機農業ガイドラインに沿って農産物を生産しているグループへ

有機認証を与え、管理していく。

インター・グループが持続的に運営されるよう、管理・運営能力向上のための研修や有機農業技術研修を行う。また、水質と土壌検査および他の野菜と区別するための販売用のビニール袋を印刷する。この他、消費者と生産者との信頼関係を構築するための交流会と有機野菜の試食会を行う。

【活動内容】

有機農業技術、能力向上研修:生態系の豊かさ、病害虫予防等、小規模農家にとって実践や理解の度合いに課題があるテーマを再度、研修する。講師はビンダイ郡農漁業普及所職員が務める。また、インター・グループのメンバーが技術指導等を行うためにトレーナー養成研修を行う。講師は経験豊富なベトナム北部農業・農村開発専門学校の教員が務める。

消費者と生産者の交流:有機野菜に関心を持つ消費者が生産者を訪問・交流し、信頼関係を構築する。

ビニール袋の印刷・水質と土壌検査:有機農産物である旨を記載したビニールを印刷し、生産者グループが活用する。また、水質と土壌の検査を行う。

定期会合・モニタリング・評価会合:インター・グループと毎月、会合・モニタリングを行う他、事業終了時に評価会合を開催し、課題と成果をまとめる。

3. 活動の実施経過 ※他機関からの助成金を活用し、実施した活動をイタリックで記しています。

| 年月 | 実施した活動内容 |
|----------|---|
| 2014年11月 | <ul style="list-style-type: none"> ● ベンチエ省 PGS 調整委員会との会合開催。 ● ビンダイ郡インター・グループと会合、能力向上研修(会計、マーケティング)を実施。 |
| 2014年12月 | <ul style="list-style-type: none"> ● ビンダイ郡インター・グループとの会合および相互チェックを実施。 ● ビンダイ郡ロックトウアン村にてベンチエ省ベンチエ町小学校の父母会および教員との交流会を開催。 ● ビンダイ郡有機野菜生産者およびインター・グループのメンバーがベトナム北部の有機農産物生産者グループを訪問し、交流した。 |
| 2015年1月 | <ul style="list-style-type: none"> ● ビンダイ郡にて相互チェックを実施した後に「有機移行期間」の認証取得に向けて書類を作成した。 |
| 2015年2月 | <ul style="list-style-type: none"> ● 旧正月前に評価会合をベンチエ省で開催し、ベンチエ省有機 PGS のロゴを選定した。また、ビンダイ郡ロックトウアン村グループが「有機移行期間」の認証を取得した。 ● 次の四半期における活動計画立案および準備を行った他、バーチー郡にて有機農業の実践希望を出している農家グループと会合を持ち、畑の視察を行った。 |
| 2015年3月 | <ul style="list-style-type: none"> ● ビンダイ郡インター・グループとの会合を実施。 |
| 2015年4月 | <ul style="list-style-type: none"> ● ビンダイ郡インター・グループとの会合を実施。 ● ベンチエ省 PGS 調整委員会との会合を実施。 |
| 2015年5月 | <ul style="list-style-type: none"> ● ビンダイ郡にてインター・グループとの会合、有機農業技術研修(土の仕組みとコンポスト作成)を実施。 |
| 2015年6月 | <ul style="list-style-type: none"> ● ビンダイ郡インター・グループとの会合を実施。 ● バーチー郡でインター・グループ設立準備会合を開催。 |
| 2015年7月 | <ul style="list-style-type: none"> ● ビンダイ郡インター・グループとの会合を実施。 |

| | |
|----------|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ● バーチャー郡にて有機野菜生産者グループとの会合、能力向上研修(トレーナー養成および相互チェックに関する研修)を開催。 |
| 2015年8月 | <ul style="list-style-type: none"> ● ビンダイ郡インター・グループとの会合、相互チェックを実施。 ● バーチャー郡にてインター・グループとの会合、有機農業技術研修(土の仕組みとコンポスト作成)、能力向上研修(相互チェックの実践)を実施。 |
| 2015年9月 | <ul style="list-style-type: none"> ● ビンダイ郡にて有機認証の取得に向けて相互チェックを実施。 ● バーチャー郡にて生産者グループとの会合およびインター・グループとの会合を実施。 |
| 2015年10月 | <ul style="list-style-type: none"> ● ビンダイ郡にてインター・グループとの会合を開催。 ● バーチャー郡にてインター・グループとの会合および有機農業技術研修(有機農業の基礎と生態系について)を実施。 ● ベンチェ省 PGS 調整委員会との会合を開催。 |

4. 活動の成果 ※貴基金から頂いた助成金を活用して実施した活動について記載します。

【実施した活動】

有機農業技術:

ビンダイ郡で1回(合計10名参加)、バーチャー郡で6回(合計53名参加)、合計7回開催し、うち、6回分の費用を貴基金の助成金で賄った。講師は各郡の農漁業普及所の職員が務めた。ビンダイ郡はすでに有機農業技術研修を実施しているため、コンポスト作成の技術をより確実なものにするために研修を実施した。また、バーチャー郡では2015年に生産者グループが作られたため、有機農業を実践する前に基本的な知識や技術を学ぶための一連の研修を開始した。

有機農業研修では、有機農業についての基本的な考え方や土の仕組みなどを学ぶだけではなく、野菜の成長に合わせて、畑で病害虫の発生状況や生態系の変化について観察し、考え、議論するため、より深く生態系や虫と植物との関係、自然のサイクルについて理解することができる。

参加した生産者グループのメンバーは、「今までこの幼虫が害虫の子だとは知らなかった」「クモが食べない虫がわかった」「畑にはたくさんのお虫がいて、農薬を撒くと、害虫だけではなく益虫も殺してしまうことがわかった」「もっと深く学びたい」「自分でもより注意深く、虫のことを観察する」といった感想を述べた。

能力向上研修:

インター・グループのメンバーが技術指導等を行うためにトレーナー養成研修と相互チェックにかかる研修を1回(合計8日間、延べ176名が参加)、実施した。参加者はバーチャー郡およびビンダイ郡のインター・グループのメンバー、講師は経験豊富なベトナム北部農業・農村開発専門学校の教員が務めた。

トレーナー養成研修では、講師が有機農業に関する知識を織り交ぜながら、トレーナーに必要とされる能力や態度、話の伝え方などについて、わかりやすく説明した。また、相互チェックに関する研修では、相互チェックをする際にどのような点を見なければいけないか、グループでチェックをする際の役割分担の重要性、相互チェック時に必要となる各種書類の書き方や質問の仕方などについて、説明が行われた。相互チェックについては、会場で学んだ後、実際に有機野菜生産者グループのメンバーの家と畑を訪問し、畑の状況を確認したり、書類に沿って質問を行うなど、本番と同じように実習を行った。参加者はトレーナーとして必要なスキルや相互チェックを行う際に必要となる基本的な知識を学ぶことができた、と話していた。

消費者と生産者の交流:

消費者と生産者間の信頼関係を構築するために、有機野菜に関心を持つ消費者がパーチャー郡の生産者を訪問・交流する予定であった。しかし、8月から9月にかけて降った雨の影響で野菜の作付時期がずれてしまい、助成期間内に実施できなくなってしまった。そのため、野菜の成長を待つ、2016年1月に改めて開催することとした。この変更については、2015年10月20日付の計画変更申請書にて報告させて頂き、ご了承頂いた。なお、本活動については、評価会合の結果と共に報告をさせて頂く予定である。

ビニール袋の印刷・水質と土壌検査:

ビンダイ郡ロケットウアン村の生産者グループが2015年2月に「有機移行期間」の認証を得た後、市場で販売されている他の野菜と区別するために、「有機移行期間」であることを明記したビニール袋を作成し、使用した。ビニール袋にはPGSについての簡単な説明とインター・グループの代表の名前および連絡先、生産者の名前と連絡先が記載されており、野菜を購入した消費者からは「生産地と生産者の情報が明記されていて、安心できる」という反響を得た。また、2015年10月には「有機野菜」の認証を得たため、有機野菜であることを明記したビニール袋を印刷し、活用している。

また、有機農業を実践する際に、個々の生産者が有機野菜を栽培する畑の土壌と使用する水の水質について検査を行うことが義務づけられている。そのため、ビンダイ郡およびパーチャー郡の3つの有機野菜生産者グループのメンバーの土壌と水質のサンプルをホーチミン市にある検査機関へ提出し、汚染がないかどうか検査を行った。幸い、全てのサンプルが安全基準を満たしていた。

定期会合・モニタリング:

ビンダイ郡およびパーチャー郡のインター・グループと11回、パーチャー郡の2つの有機野菜生産者グループと4回、ベンチエ省有機PGS調整委員会と2回、会合を開催した。インター・グループの会合では、主に毎月の生産量と販売量の確認と病害虫などへの対処方法等について話し合った。また、パーチャー郡では有機野菜生産者グループおよびインター・グループ共に設立されて間もないため、有機農業に関する研修や生産計画、相互チェックの実践準備などについて、個別に会合を開催し、手順や内容について確認を行った。さらに、ベンチエ省有機PGS調整委員会との会合では、各地域の有機野菜生産者グループおよびインター・グループの現状と課題について共有する他、ベンチエ町の教育室や小学校と連携し、交流会や研修を開催する準備を行った。

評価会合:

事業終了時に評価会合を開催し、課題と成果をまとめる予定であったが、「3. 消費者と生産者の交流」にて既述のとおり、野菜の作付時期がずれてしまったため、助成期間内に評価を行うことが困難となった。本活動を実施した後に「3. 消費者と生産者の交流」と共に報告をさせて頂く。

有機農業の情報発信を目的としたパネルおよび看板の制作・設置および本事業を紹介するためのポスター兼カレンダーの印刷費:

「3. 消費者と生産者の交流」および「6. 評価会合」で既述したとおり、交流会および評価会合を実施できなくなったため、この2つの活動予算を有機農業や本事業を紹介するための看板やパネル、ポスター兼カレンダーの印刷費として活用させて頂くことを申請し、承認して頂いた。すでにパネルと看板はホーチミン市

にある販売店に取り付けられ、消費者に有機農業や本事業について情報を伝えている。消費者からは「有機農業について詳しくわかるようになった」といった感想を得ている。また、ポスター兼カレンダーを配布した農家からは「有意義な事業なので、もっと拡大して実施して欲しい」といった意見が寄せられた。

【短期的な成果】

1. 生産者グループに参加している小規模農家は、有機農業技術を学び、しっかりと実践することで、環境に負荷をかけず、質の良い農産物を生産することができるようになる。
⇒有機農業技術の習得および実践については、3つの有機野菜生産者グループのメンバーが研修にしっかりと参加し、学んだことを実践している。しかし、一部のメンバーは、害虫を呼び寄せるための花の植え付けや、輪作・間作の実践が不十分なため、今後、改善していく。
2. 生産者グループに参加している小規模農家は、生産記録をつけたり、共同のモニタリングや販売を通じて、野菜の生産・品質管理や支出入の管理能力を向上させることができる。
⇒活動に参加している農家の全員が生産記録と帳簿と付けている。2015年11月より本格的にホーチミン市へ野菜を販売するようになり、今後、さらに管理能力が向上していくことが期待される。
3. インター・グループの会合を通じて、小規模農家は地方行政や農業専門機関の職員より、技術指導を受けたり、政策の情報を容易に得ることができるようになる。また、中間商人を通すことなく、直接、有機農産物を消費者や流通業者へ販売できるようになり、現金収入の増加につながる。
⇒インター・グループの会合を通じて、農業専門機関の職員より技術指導を受けたり、政策を通じた支援についての情報を得られるようになった。また、インター・グループに参加している流通業者へ直接、野菜を販売するようになり、現金収入は2~3倍へと増えた。
4. 生産者グループと消費者や流通業者との信頼関係を基礎とした流通の仕組みができることで、消費者は安全な野菜を食べることができ、生産者は安定した収入を得られることが期待できる。
⇒インター・グループに参加している流通業者が経営するホーチミン市の販売店にて、パネルやビニール袋などを通じて消費者に有機野菜や生産者についての情報がもたらされ、作り手の顔が明確に見えるようになった。また、消費者が慣行農法で作られた野菜と有機野菜を見分けられるようになってきた。そのため、消費者から寄せられた意見を流通業者が生産者に伝え、技術の向上に繋げていく体制が整いつつある。こうした相互の信頼関係が深まっていくことで、消費者は有機野菜を継続的に購入できるようになり、生産者は安定した収入を得られるようになっていくことが期待できる。

【長期的な成果】

1. 環境保全型の農業技術を実践することで小規模農家の健康と生活環境が守られ、さらに地域の生態系や自然資源を守ることにつながっていくことが期待できる。過去に枯葉剤が散布され、近年の農薬等の過剰使用で生態系が破壊されている事業対象地域にとっては、生態系や自然資源を守り、人々の暮らし、特に貧困層の暮らしを安定させていくために重要な布石となる。
2. 小規模農家が環境保全型農業を実践し、技術を高め、さらにインター・グループの運営を通じて外部との交渉や品質管理の経験を積むことによって、利益追求だけではなく、環境や健康にも配慮でき、

自分の土地を上手に経営できる農家になっていくことが期待できる。

⇒活動に参加している農家は、有機農業研修において技術だけではなく生態系などについても学んでおり、農業が生態系に及ぼす影響やその弊害についても深く理解できるようになってきている。今後、農家自身が自分や家族の健康、地域の環境、そして、消費者の健康についても配慮しながら、上手に農地を持続的に活用しながら生計を安定させていけるようになることが期待できる。

3. インター・グループが自主的に継続的に管理・運営されるようになり、流通業者との取引が増える他、有機農業を实践したいという小規模農家が増えることが期待できる。
⇒活動に参加している農家は、有機野菜を生産・販売することで現金収入が増えること、インター・グループに参加することの意義やメリットについて、すでに理解している。また、活動に参加していない農家やホーチミン市の流通業者にもこの情報が伝わり、参加希望を出す農家グループや流通業者が多数、出始めている。そのため、今後、有機農業を实践する農家数が増え、インター・グループが継続的に管理・運営されていくことが期待できる。
4. 交流会を通じて、都市に住む消費者にインター・グループの存在や活動が周知されるようになり、多くの消費者が生産者グループの野菜を購入したり、農村を訪問するようになることが期待できる。また、将来的には地元の自然や食文化を紹介するエコツーリズムや加工品の発展を促し、新たな雇用が生まれていくことが期待できる。
⇒フェイスブック等を通じて、消費者への情報発信が功を奏しており、有機農業や有機 PGS についての情報も周知されるようになってきている。すでに、生産地を訪問したいという消費者グループも出てきており、近い将来、消費者の関心がさらに高まっていくことが期待できる。今後、生産地の人々が行政職員や流通業者と協力し、加工品の開発やエコツーリズムなどに取り組んでいく体制を整えていくことが課題である。
5. 行政機関の職員が事業について理解を深め、政策を通じて生産者グループの活動を支援し、環境に配慮した地域づくりの基礎が整えられていくことが期待できる他、ベンチエ省以外の地域へ本事業が紹介され、経験が普及・応用されていくことが期待できる。
⇒ベンチエ省有機 PGS 調整委員会や各インター・グループに参加している農業機関や行政機関の職員が農家を支援する政策等についての情報を共有するようになった。また、ベンチエ省以外のホーチミン市やロンアン省、ピンディン省などからも有機 PGS を実践したいという希望が出されている。

【波及効果】

1. ベトナムの農村の多くはベンチエ省と同様の課題を抱えており、農家間の協働が必要とされているが、実際に成功している例は少ない。理由は、生産者間、或いは流通業者や消費者、そして生産者との間に相互不信があるからである。本事業は、互いに協力していこうという意欲を持つ人々が、相互の信頼関係を基礎に公平で透明な生産と流通の仕組みを構築していくことを支援するものである。この取り組みが成功することによって、農家間の協働が可能で、グループ活動が自主的に運営されること、さらに、多くのステークホルダーとの信頼関係を構築することができ、より透明で公平な流通の仕組みができること、などについてベトナム社会に示すことができる。

⇒生産者と生産者、消費者と生産者、流通業者と消費者の間に信頼関係が生まれてきている。しかし、相互チェックを行う過程で、ある生産者が化成肥料を使用していた、といった問題が生じる可能性がある。その際、各ステークホルダーがどのように対処していくのかが問われる。弊組織が関わる間、各ステークホルダーが共に信頼し合い、過ちから学び活かしていく、という前向きな姿勢を培っていくよう努力する。

2. ベトナムでは大規模経営化しなければ農地経営が成り立たないとされているが、小規模でも経営が成り立つというモデルを示すことができる。このモデルが周知されるようになれば、多くの小規模農家が農地を売ったり、村から出ていかなくとも農業を続けながら、生計を立てられるようになる。

⇒すでに有機野菜を販売している小規模農家の収入は増えており、モデルとして示すことができる。こうした事例を行政機関の職員や他地域の農家に積極的に伝えていく場を設けていく。

3. 有機農産物の生産のみならず、加工品や有機農業資材(ミミズ・コンポストなど)の生産・販売などに取り組んでいくことで、農村に雇用が生まれ、土地を持たない貧困世帯も村内で現金を得、生計を立てていけるようになる。こうした取り組みはベトナムではほとんど行われていないため、新しい地域づくりの手法として示すことができる。

⇒ミミズ・コンポストを他の農家に販売している有機農家が存在するが、経営規模は小さい。今後、経営規模を拡大し、多くの人々に周知できるよう、必要な支援を行う。また、有機野菜を無駄にしないための加工品づくりなどに取り組んでいく。

今後の課題

今後の課題としては、まず、有機野菜生産技術をさらに向上させ、有機野菜の品質と生産量を安定させる必要がある。現状では、ニーズに供給量が全く追いついていない状況である。また、インター・グループが実施する相互チェックや流通業者との連携を通じて、異なる立場の人々が協力して有機野菜を公平に透明に消費者に届けていく仕組みを安定させる。この点については、問題が生じた際にどのように当事者が知恵と力を合わせて乗り切っていくのか、現場での経験の積み重ねが必要である。本事業を終了した後も、ステークホルダー間の信頼関係を基盤とした健全な管理・運営体制を確立できるよう、弊組織の職員がインター・グループや調整委員会のメンバーとして参加し、支援を行う。

以上

活動写真



2015年2月に開催した2014年度の活動評価会合にてビンダイ郡ロックトゥアン村の生産者グループが有機 PGS 認証を授与されている様子。



2015年2月に開催した2014年度の活動評価会合にて参加者が選んだベンチェ省有機 PGS のロゴ。ベンチェ町小学校の生徒達が描いた候補の中から投票で選ばれた。下部には「皆さんの健康のために」と記されている。



2015年7月から8月にかけて開催した能力向上研修の様子。ベトナム北部より有機農業および PGS の運営・管理の経験豊富な講師を招聘し、パーチー郡にて開催した。



2015年8月にバーチー郡アンホアタイ村で開催した有機農業技術研修でコンポストを作成した時の様子。有機野菜生産者グループのメンバーは技術を確認し、早速、各自、コンポストを作成した。



2015年10月に有機 PGS 認証を得たビンダイ郡ロックウアン村生産者グループのために印刷した販売用のビニール袋。有機農業の簡単な説明とインター・グループの代表者の名前および電話番号が印刷されている。



2015年10月に作製した有機 PGS 認証を受けた有機野菜を販売していることを示した看板。ホーチミン市の Viet Tam 社が持つ店舗に掲げられている。